

備前市施策評価シート

施策名 (小項目)	交通安全	コード	作成者	役職	市民課長
		01-04-01		氏名	谷本 隆二
				電話	64-1876
				このシート作成に要した時間	2.5 時間

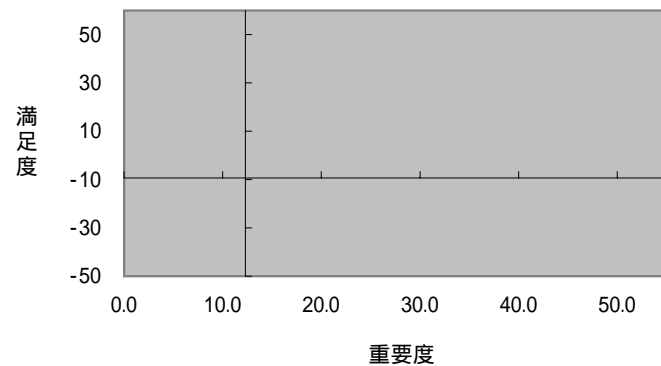
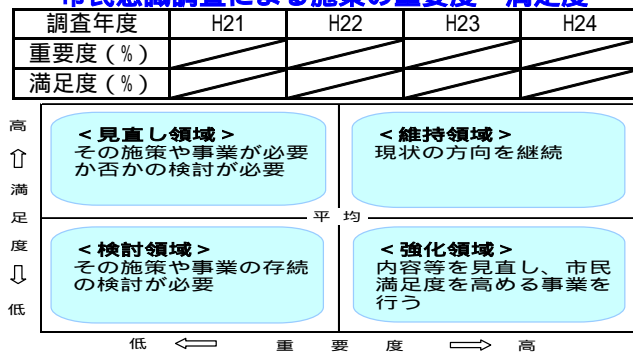
この施策の アピール ポイント	岡山県交通安全実施計画に基づき、備前警察署、備前市交通安全対策協議会や交通安全協会など関係団体との協力体制で、交通安全意識の高揚等に努める
-----------------------	---

この施策の 平成23年度の 施政方針	記載なし
--------------------------	------

< 備前市総合計画の内容から記載する >

政策の体系	基本目標(大項目)	安全で快適に暮らせるまちづくり
	基本施策(中項目)	安全で安心して暮らせるまちづくり
対象と目的 (誰のために、何のために)	道路通行者の交通事故防止	
現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	全国的に交通事故死者数は減少傾向にありますが、事故発生件数は依然として増加傾向にあります。特に、高齢社会が急速に進む中で、全交通事故死傷者に占める高齢者の割合が年々高くなっています。また、通学路での痛ましい事故が続いたことから通学路の総合的な安全対策が求められている。このような中で、市民一人ひとりが交通ルールを遵守し、交通マナーを向上させることが必要であり、今後とも、家庭、学校、職場、地域などで、幼児から高齢者までに幅広い交通安全教育を推進し、交通安全意識の高揚を図る必要があります。	
施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全意識の高揚 交通安全教育の実施 交通安全施設の整備 	

市民意識調査による施策の重要度・満足度



調査結果に対するコメント、市民の反応等	市民意識調査において「交通マナーが守られていると感じている市民の割合」は、下記参考指標 のとおり、低いレベルでほぼ横ばいとなっている。特に、市内ではないが、ニュースとなった大きな事故が全国各地で続いたため、市民目線が厳しくなっている。このため、関係団体等との協力で地道な啓発活動などを展開する必要があります。
調査対象でない施策は、市民の反応等	

施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績			評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H21	H22	H23			H24	H28
成果指標 交通事故発生件数(人身)	目標	件	210	210	200	資料(交通年鑑) 100以下で達成	H24	200
	実績	件	269	232	218		H28	180
	達成率	%	128.1	110.5	109.0		-	-
	ベンチマーク						-	-
参考指標 市民による事故発生件数	目標	件	65	65	60	交通事故1万人当たり換算 資料(交通年鑑)100以下で達成	H24	60
	実績	件	74	74	64		H28	55
	達成率	%	113.8	113.8	106.3		-	-
	ベンチマーク						-	-
参考指標 高齢者の交通事故被害件数	目標	件	60	60	50	65歳以上の人数 資料(備前警察署)100以下で達成	H24	50
	実績	件	68	82	61		H28	40
	達成率	%	113.3	136.7	122.0		-	-
	ベンチマーク						-	-
参考指標 交通マナーが守られている と感じている市民の割合	目標	%	100.0	100.0	100.0	市民意識調査	H24	100.0
	実績	%	21.9	26.2	18.8		H28	100.0
	達成率	%	21.9	26.2	18.8		-	-
	ベンチマーク						-	-

目標達成に必要な新規事業(裏面 施策構成事務事業以外の事業)及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
公安委員会	信号機等の規制に関する施設整備	交通事故の削減

施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断	理由(なぜ、そのランクと評価したのか)
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	3	3	人身交通事故の発生件数の減少は交通安全を象徴する指標として妥当である。
2 <事業構成の妥当性> 手段は最適か?	3	3	妥当である。
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	3	3	継続的な実施が必要である。
進行年度(H24年度)の取組内容 (課題解決状況)			交通安全意識の啓発は一朝一夕に結実しないため、地道に施策を継続的に展開することが肝要である。一方で、高齢者の被害件数が増加していることから、機会を捉えて高齢者への交通安全意識の向上啓発に努めたい。また、通学路については、経路の見直しや道路整備など総合的な見地での取り組みが必要のため、学校教育課、都市整備課と一緒に通学路等安全対策連絡会を立ち上げ、備前署とも連携を取りながら対策を検討していく。
翌年度(H25年度)の取組目標			従前の取り組みを継続する。
二次評価者コメント			市内の各種関係機関との連携はよく取れており、交通安全意識の高揚は図られている。重点目標である高齢者への啓発事業等をより一層展開することが必要である。
役職 市民生活部長 氏名 野上 茂之			基本施策への 貢献度 3 中立

